

令和4年3月10日

保護者の皆様
地域の皆様

仙台市立長命ケ丘小学校
校長 鈴木 淳

学校重点目標・協働型学校評価重点目標のアンケート結果について（お知らせ）

春色の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、今年度、めざす児童像を「自ら考え、学び合う子」「思いやり、助け合う子」「健康で、きたえ合う子」とし、また、協働型学校評価重点目標を、「めあてに向かって挑戦し続け、自分に自信を持って行動する子供を育てる」と設定し、学校・家庭・地域が協働して取り組んでまいりました。

その取組の成果を確認するために、保護者の皆様、児童、教職員を対象にアンケートを実施しましたので、その結果について別紙の通りお知らせします。なお、保護者アンケートの回収率は、85.1%でした。また、学校評議員・学校関係者評価委員の皆様にも、2回にわたり学校へお越しいただき、貴重なご意見をいただきました。

本校は、多くの皆様にご評価いただきました結果を真摯に受け止め、来年度も、教職員一同、一層努力し、教育活動に取り組んでまいりたいと思います。保護者の皆様には、今後とも、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

1 アンケートの分析と取組の振り返りの概要

<学校行事>

今年度もコロナ禍にあり、感染拡大防止に留意した教育活動を進めてきたところです。保護者の方からは、コロナ禍であっても工夫して学校行事を行ってきたことを評価していただきましたが、陸上競技会、持久走記録会等の行事を工夫して行ってほしかったというご意見もいただきました。6年陸上記録会は仙台市小学校全体として中止になり、今年度は運動会を学年部ごとに行っていることから、6年生の記録会に類する行事は行いませんでした。持久走記録会は、感染拡大防止のため行わないことになりました。代わりに体育の時間に「3分間走」を実施して走る習慣付けの取組を行ってきました。来年度はこれらの反省を生かしながら、児童が安心して学校行事が行われるよう計画していきます。

<学習>

4月に実施した仙台市標準学力検査（3～6年）や全国学力・学習状況調査（6年）の結果から、本校児童は、全学年において基礎的な学習内容はおおむね定着していることが分かりました。一方で、理解の面で、個人差の幅が広いという課題もありました。その現状も踏まえ、今年度も取り出し指導も含めた個別の指導や担任等による学習支援を行ってきたところです。保護者アンケートから、家庭学習等において、保護者の皆様が子供たちにとって有効な声掛け・支援をしていただいたことが分かりました。また、今後GIGAスクール端末を活用し、教科書のデジタル化、宿題のオンライン化などを導入することで、児童が学習に取り組みやすくなることを期待するご意見もいただきました。学校として改善できることについて、来年度も対応してまいります。

<豊かな心の育成について>

「優しい心で接しようとすることができましたか」という設問に、児童・保護者も、肯定的な回答の割合が昨年よりもさらに伸びていました。昨年度から、校内研究で「道徳科」に取り組んでおり、この1年間の取組を通じて、児童が物事に対して多面的・多角的に考えられるようになってきました。また、教育活動全体の様々な取組を通して、優しい心が育ってきたと言えます。

裏面もご覧ください。

＜進んで考える・進んで発表するについて＞

学習では、「進んで学習に取り組むことができましたか」という設問において、児童は肯定的な回答が昨年よりも伸びていました。授業の工夫や少人数指導を含む個に応じた指導の充実、家庭との連携によって学習に進んで取り組むことができたのだと思われます。

＜健やかな体の育成について＞

児童の肯定的回答が昨年度と比べて伸びています。コロナ禍にあっても、外遊びを楽しむ児童が以前よりも増えました。また、毎時間の体育の授業の中で、児童が運動する機会を確保し、運動量を増やす工夫を行ってきました。今年度は、体育の授業での「3分間走」、オリジナルの準備体操も取り組みました。来年度も、児童が体を楽しく動かせる機会を設けていきたいと思えます。

＜挨拶＞

「ど・れ・み（どなたにも・れいをして・目をみて）」の挨拶は本校で定着していることがうかがえます。アンケートでは特に保護者の肯定的回答が伸びています。「これまでの積み重ねで挨拶の習慣がついてきた」という保護者の声もいただいておりますし、地域の方からも「子供たちが挨拶をしてくれた」という喜びの声もいただいております。

＜挑戦することについて＞

昨年同様、児童・保護者・教職員ともに肯定的な回答は80%を超えています。子供たちが具体的にめあてを設定し、さらにその手立ても意識させたことで、めあてに向かう努力の姿がいたるところで見られました。一方で、個人でめあてを設定しているため、達成度にばらつきが見られました。次年度は、本校で仙台版コミュニティ・スクールが本格的に始まることにより、長命ヶ丘小学校・中学校で9年間を見据えた目指す姿を設定し、どの児童もめあてに向かって成長できるように地域と共に取り組んでいきます。

＜自己肯定感について＞

若干ですが、昨年よりも児童の意識が高くなっています。教職員の具体的な称賛の声掛けや、学習活動や帰りの会等で友達の頑張りやよいところを言葉にして伝え合う活動も定着したことで、自己肯定感の向上につながる成果が現れたと言えます。

＜いじめ対応＞

保護者のみを対象としていますが、昨年同様高い評価を得ている反面、「いじめが起きた場合に適切に対応しているか」という設問で、「よくできている」と回答している保護者が若干減っています。昨年同様90%以上の肯定的回答をいただいておりますが、真摯に受け止め、児童の気持ちにより添いながら、教職員一同、より一層のいじめ対策・対応に努めていきます。
※他にも保護者の皆様からご意見をいただいたことについては、検討した上で、子供たちのよりよい教育活動の計画に生かしていきたいと思えます。

2 学校評議員・学校関係者評価委員の皆様より（ご意見）

- ・学校教育の中では、いじめは複雑化している。また、時代が変わってきていることで、人との付き合いの難しさが出ている。これを、しっかり共有していかなくてはならない。
- ・廊下にめあてが掲示されていたが、高学年は「そのためには」と具体的な行動の手立てが書かれていたことがすばらしい。将来そのような考え方が生きてくるだろう
- ・授業参観を通して、活発な授業を見ることができた。特に1・2年生の、すごく活発に挙手したり意見を発表したりする姿が目立った。高学年になると慎重に物事を考えているなど感じた。グループ討議の中で、協調しながら、考えをまとめている姿が見られた。コロナ禍の中で心配していたものが、見受けられなかった。
- ・2回目の授業参観だが、以前より落ち着いていた。タブレットの使い方など、子供たちが巧みに操作していて、効率的な授業内容だと感じた。
- ・児童も先生方も、すごく前向きに、生き生きとした授業を進めていた。どの授業も、先生方が教材の工夫をされていると感じた。同じテーマの学習でも、担当する先生の教材研究によって、少し違いがある。それが、工夫されていると感じ、感心した。
- ・各教室に、エアコンや扇風機が設置されており、快適に学習できたと思うが、一日も早く、換気しなくてもよい状況になってほしい。
- ・鉛筆の持ち方が気になった。違う持ち方をしていると、大人になってから、恥ずかしいと思うことがあるので、硬筆の時間や書きぞめの練習の時にでも、直してあげたらよいと思う。
- ・コロナ禍でできないことが多い中で、子供たちのことを思って、いろいろ工夫してくださっていると改めて思った。